

京芸通信

KYOGEI TSUSHIN

VOL. 34

京都市立芸術大学 広報誌 第34号 / 令和7年1月



京都芸大の最近の活動や主な話題を紹介 KYOGEEI TOPICS 京芸トピックス

超絶技巧 目の当たりに

国立印刷局の工芸官による特別講義

2024年6月28日、美術学部版画専攻において、国立印刷局の工芸官をお招きし、特別講義を実施しました。この特別講義は、同局の社会貢献に寄与する取組の一環として2022年度から日本国内の美術系大学において実施されているもので、本学では今回初めて実施されました。特別講義には、本学のほか大阪芸術大学と京都精華大学から合わせて約80名の学生が参加しました。学生たちは、同局の事業や工芸官の仕事などについてのレクチャーを受け、



エングレーヴィングと呼ばれる銅版画の技法（紙幣の肖像や文様などを銅版にビュランという特殊な工具を用いて彫刻する）の実演を見た後、工芸官の方々から実技指導を受けました。紙幣やパスポートなどにおけるセキュリティ印刷で駆使される超絶技巧を目の当たりにし、学生からは感嘆の声が上がるなど、新紙幣の発行を前に、アートと技術の融合を体現する国立印刷局の事業について理解を深める機会となりました。

音楽学部・音楽研究科 定期演奏会を開催

2024年7月5日および12月10日、京都コンサートホール大ホールにおいて、音楽学部・音楽研究科による定期演奏会を開催しました。

7月の第174回定期演奏会は、社会奉仕団体「京都ライオンズクラブ」のCN（チャーターナイト：ライオンズクラブ国際協会により正式に承認された証として交付される認証状の伝達）70周年記念チャリティーコンサートとして開催しました。阪哲朗教授の指揮のもと、音楽学部・大学院管弦楽団がJ.ブラームスの「大学祝典序曲」、L.v. ベートーヴェンの「交響曲第6番〈田園〉」に加え、学内オーディションによって選ばれたソリストとともに、S.ラフマニノフの「ピアノ協奏曲第1番」をお届けしました。チケット収益の全額は、京都ライオンズクラブにおいて社会に貢献できる奉仕活動に充てられます。12月の第175回定期演奏会では、世界を舞台に活躍する指揮者キンボー・イシイ氏の指揮のもと、P.I. チャイコフスキーのバレエ音楽「くるみ割り人形」組曲、F.メンデルスゾーンの全8声の宗教的合唱曲「詩篇第114篇」、そしてI.ストラヴィンスキーのバレエ音楽「ペトルーシュカ」をお届けしました。



7月5日 第174回 定期演奏会

指揮 | 阪 哲朗 (指揮専攻教授)

独奏 | 生駒 由奈 (ピアノ専攻4回生)

管弦楽 | 京都市立芸術大学 音楽学部・大学院管弦楽団

曲目 | J.ブラームス／大学祝典序曲 八短調 作品80

S.ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第1番 嬰ヘ短調 作品1

L.v.ベートーヴェン／交響曲第6番 へ長調 作品68〈田園〉



12月10日 第175回 定期演奏会

指揮 | キンボー・イシイ

管弦楽 | 京都市立芸術大学 音楽学部・大学院管弦楽団

曲目 | P.I.チャイコフスキー／バレエ音楽「くるみ割り人形」組曲 作品71a

F.メンデルスゾーン／詩篇第114篇 作品51

I.ストラヴィンスキー／バレエ音楽「ペトルーシュカ」(1947年版)



活躍する卒業生を招いて公開特別講義 《イブニング・テラス》を開催

2024年7月26日および10月23日に、各分野で活躍中の卒業生を招いての公開特別講義《イブニング・テラス》※を開催しました。

7月は、美術家で本学客員教授の森村泰昌氏をお招きし、「私にとって『大学』で、なんやったかな?」と題し、赤松学長が対談形式でお話を伺いました。ともに美術学部で学んだ卒業生である森村氏と赤松学長は、大学時代のことや、キャンパス移転と本学のこれから、社会における芸術や大学の役割などが話題になりました。

10月は、銅版画家の山本容子氏、日本画家で本学客員教授の森田りえ子氏をお招きし、「描いたこと。描き続けたこと。そして、考えたこと。考え続けていること。」をテーマに、赤松学長を交えて鼎談を行いました。3人が通った今熊野キャンパスや学生時代の思い出にはじまり、お二人のその後の創作に対する真摯な姿勢や弛まぬ努力が幸運を惹きつけ、それをチャンスに繋げたお話など、会場にお越しになった皆様が元気になるエピソードをたくさんお聞きすることができました。山本氏からは、小説や物語を読みこんで創作につなげたことや、森田氏からは、植物写生を繰り返すことで生命の尊さへの気づきが生まれたことなど、芸術を志す在学生にとっても大変刺激のあるお話をお伺いすることができました。両日とも100名を超える皆様にご来場いただき、最後に質疑応答の時間も設けられました。

※公開特別講義《イブニング・テラス》は、京都市立芸術大学の教育や研究を公開することで、京都の知恵、文化、技術と融合し、さらなる京都の発展につなげていただこうと企画した連続講座です。(共催：寺田倉庫株式会社、協賛：株式会社チャーム・ケア・コーポレーション)



森村泰昌氏

山本容子氏、赤松玉女学長、森田りえ子氏

アトリエやレッスン公開、教員・在学生との交流など オープンキャンパスを開催

美術学部は2024年6月30日にYouTubeライブ配信によるオンライン進学説明会、8月4日に本学内で各専攻による説明会・相談会、アトリエ公開などを開催し、音楽学部は9月28日にWEB上での専攻別ガイダンス、10月5日に本学内で在学生のレッスン等の公開を行いました。



美術学部オープンキャンパスの様子



音楽学部オープンキャンパスの様子

新キャンパスで美術学部の授業を体験！ サマーアートを開催



京都画壇と京都芸大 ―「京都芸大(はじめて)物語」展によせて(田島達也教授/総合芸術学専攻)

2024年8月、新キャンパスで初めてとなるサマーアートを開催しました。美術学部では毎年、美術に興味がある方や「京都芸大の授業を一度受けてみたい」という方に向けて、本学ならではの芸術教育の知識や技



「伝統日本絵画技法 絹本画に親しむ」
(担当: 宇野茂男教授/保存修復専攻)



「染料で描き染める」
(担当: 藤井良子准教授/染織専攻)

術を生かし、多くの皆様に芸術文化を学ぶ機会を提供しています。実技や講義など、多彩な講座を行い、本学教員や非常勤講師、大学院生などが指導にあたりました。

大嶋義実教授 退任記念コンサート オーシマセンセーと素敵な仲間たち

2024年8月14日、堀場信吉記念ホールにて、2024年3月をもって退任した大嶋義実教授(現名誉教授)の退任記念コンサートを開催しました。在職25年、音楽学部長や副学長を務め、学生の学びと本学の発展のために尽力した大嶋名誉教授が、自身が指導した演奏家やアジアフルート連盟会員有志らと共に、フルートオーケストラで様々な楽曲を演奏。満席のホールの中、その繊細な音色を響かせました。



出演 | 大嶋 義実(指揮/京都市立芸術大学名誉教授)
富久田 治彦(指揮/名古屋フィルハーモニー交響楽団首席フルート奏者)
松村 衣里(ハープ/京都市交響楽団ハープ奏者)
倪 一珍(フルート/北京中国音楽学院教授)
朴 美香(フルート/上海音楽学院教授)
リ・ソヨン(フルート/建国大学教授)
クリスティーナ・ヴァツロヴァ(フルート/ブルノ・ヤナーチェク音楽院助教授) 他
曲目 | A.F.ドップラー/アンダンテとロンド
廣瀬 量平/フルートレイン
W.A.モーツァルト/フルートとハープのための協奏曲 他

学内で選出された学生がソリストを務める オーケストラ協演の夕べ

2024年10月6日、堀場信吉記念ホールにて、学内で選出された優秀な学生が本学アカデミーオーケストラと協演する演奏会「オーケストラ協演の夕べ」を開催しました。第6回目となる本公演では、阪哲朗教授及び指揮専攻学生が指揮を務め、ヴァイオリン、打楽器、ソプラノの学生たちがそれぞれソリストを務めました。

出演 | 阪 哲朗(指揮/音楽学部教授)、飯本 繁倫(指揮専攻2回生)、萩原 凜(管・打楽器専攻4回生)、中野 未唯(声楽専攻4回生)、大石 彩代(弦楽専攻4回生)、京都市立芸術大学 音楽学部・大学院管弦楽団



曲目 | G.ロッシニ/歌劇《セミラーミデ》序曲
T.プロストレム/アリーナ〜打楽器協奏曲第1番
G.マイアベーア/歌劇《ユグノー教徒》より「高貴な殿様がた、失礼いたします」
R.グリエール/コロラトゥーラ・ソプラノのための協奏曲 作品82
B.バルトーク/ヴァイオリン協奏曲第2番 Sz.112 (BB117)

アールスペース k.kaneshiro × 日本伝統音楽研究センター
コラボ企画「源平合戦図屏風を謡い舞う
ー 謡曲〈敦盛〉と〈忠度〉」



金剛龍謹氏による謡・仕舞いの実演



源平合戦図屏風

2024年10月9日、本学内のアールスペース k.kaneshiroにて、「伝音ライブ!」第4回「源平合戦図屏風を謡い舞うー謡曲〈敦盛〉と〈忠度〉」を開催しました。展示中の《源平合戦図屏風》(六曲一双のうち右隻)に描かれた「須磨一ノ谷の戦」に臨んだ平敦盛や平忠度の最期の場面は、能楽の謡や舞においても詳しく物語られています。能楽シテ方金剛流の能楽師で本学非常勤講師の金剛龍謹氏によるその情景の謡や仕舞の実演と、教員と学生による屏風の展示解説を行い、絵画と能楽、両者を比較しながら、表現の違いに迫りました。

京都市京セラ美術館にて
京都市立芸術大学移転記念特別展
「巨匠たちの学び舎
日本画の名作はこうして生まれた」

2024年10月11日から12月22日まで、京都市京セラ美術館本館南回廊1階にて、本学の移転を記念した特別展「巨匠たちの学び舎 日本画の名作はこうして生まれた」が開催されました。



中村大三郎《ピアノ》1926年(京都市京セラ美術館蔵)

巨匠たちの学び舎 日本画の名作はこうして生まれた」が開催されました。本学の前身である京都府画学校や美術工

芸学校、絵画専門学校で研鑽を積んだ47人の画家を前期・後期に分けて一堂にご紹介いただきました。会期中、本学教職員によるトークイベントが開催されたほか、特別企画として、本学の学生のデザインによる、本展出品作品をイメージしたオリジナル和菓子が美術館内カフェ「ENFUSE」にて販売されました。



土田麦僊《髪》1911年
(京都市立芸術大学芸術資料館蔵)



学生デザインの和菓子を販売(協力:京菓子司 金谷正廣)

個性豊かな学生たちによる模擬店や展示、ステージで大盛況!
芸大祭2024「イドバタ大会議」

学生たちの日頃の成果はもとより、京都芸大の魅力を市民の皆様に体感していただく機会として、2024年11月1日から3日まで「京都市立芸術大学芸大祭」を開催しました。今年のテーマ「イドバタ大会議」には、昨年京都駅東側に移転した本学が、この街のゆるやかな対話の場、新たな井戸端のコミュニティになってほしいという学生たちの想いが込められました。



サグラダ・ファミリア「歌う天使たち」石膏像常設展示プロジェクト クラウドファンディングを実施



スペイン・バルセロナにあるサグラダ・ファミリアの彫刻を半世紀近く担当している外尾悦郎氏（本学卒業生）から、正面の「生誕の門」に約10年間設置されていた「歌う天使たち」の石膏像9体を寄贈いただきました。現在設置されている石像の原型になります。これらの石膏像は、外尾氏が携わった彫刻制作の「記録」であり、役目を終えた現在も芸術的・文化的価値を備えた貴重な彫刻作品です。京都の地でより多くの方々に会っていただきたいという思いから、本学キャンパス内に常設展示するため、2024年10月から約3ヶ月間クラウドファンディングを実施しました。支援数545件、目標額の98%となる2940万1000円のご支援をいただき、設置に向けて始動しました。設置工事は2025年1月末に着工予定です。多くのご支援、誠にありがとうございました。



外尾悦郎氏作「歌う天使たち」

ギャラリー@KCUA

外部研究者との共同研究に 本学学生が参加

@KCUAでは、装いとコミュニケーションのあり方を広義的に捉え、音や環境との関係性から分析するための共同研究「わたしたちのまとうもの：装い、音、環境をめぐる考察と実践」を進めています。これまでに、本学ならびに東京藝術大学で複数回のワークショップを実施しました。2024年8月24日から10月14日まで@KCUAにて開催された展覧会「聞く／聴く：探究のふるまい」



岡留優パフォーマンス「自分を装う」
(撮影：吉本和樹)

では、同共同研究に関連した展示を行いました。研究協力者として、本学大学院美術研究科絵画専攻構想設計修士2年の岡留優さんが展覧会会期中に5日間の関連パフォーマンスを実施し、美術学部・音楽学部・大学院美術研究科の学生計12名が展覧会の会場内実験エリアでの解説スタッフを務めました。



「聞く／聴く：探究のふるまい」共同研究実験エリア展示風景（撮影：来田猛）

共同研究メンバー 西尾美也（美術家／東京藝術大学美術学部先端芸術表現科准教授）
柳沢英輔（音文化研究者・サウンドアーティスト／日本学術振興会特別研究員RPD（国立民族学博物館））
藤田瑞穂（@KCUAチーフキュレーター／プログラムディレクター）

総合芸術学科の砂山太一准教授

第19回ヴェネチア・ビエンナーレ 国際建築展に参加

2025年に予定されている第19回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展の日本館展示に、本学美術学部総合芸術学科の砂山太一准教授と木内俊克氏との建築ユニット「砂木」が参加します。

日本館展示は国際交流基金の主催によるもので、青木淳氏をキュレーターとして、「中立点ー生成AIとの未来」をテーマに、人間と生成AIとの間の「中立点」を浮かび上がらせ、生成AIの進化の方向付けに役立てることを狙いとしたものです。日本館展示は、2025年5月10日から11月23日まで一般公開される予定です。

砂山太一准教授 コメント

この度、歴史あるヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展の日本館展示において、青木淳さんのキュレーションのもと、出展作家として選出されましたことを大変光栄に思います。2021年に続き今回が2回目の選出となり、日本館展示への2度の選出は非常に珍しいことであり、大変名誉なことと感じています。日本館展示を担う者として、優れた作品展示を行えるよう尽力して参ります。



国際交流基金での記者会見の様子（右端が砂山准教授）
(撮影：佐々木まりあ 提供：国際交流基金)



赤松学長への報告の様子

本学関係者の2024年出版物紹介

()内は発売日

2024年出版の本学関係者の書籍の一部をご紹介します。芸術関連のみならず
バラエティに富んだラインナップです。ぜひ手にお取りください！

教員 (非常勤講師含む)



池上健一郎 訳
アントン・ブルックナー
春秋社
(2024/10/31)



加須屋明子 編著
**芸術と社会
表現の自由と倫理の相克**
中央公論美術出版
(2024/10/30)



齋藤桂 ほか 編著
**ベートーヴェンと
大衆文化
受容のプリズム**
春秋社
(2024/1/18)



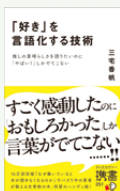
島田陽 著
自由な住宅の設計
エクスナレッジ
(2024/10/13)



谷川嘉浩 著
**人生のルールを外れる
衝動のみつけかた**
筑摩書房
(2024/4/10)



三宅香帆 著
**ずっと幸せなら
本なんて読まなかった**
幻冬舎
(2024/9/26)



三宅香帆 著
**「好き」を
言語化する技術**
ディスカヴァー・トゥエン
ティワン
(2024/7/31)



三宅香帆 著
30日de源氏物語
亜紀書房
(2024/6/24)



三宅香帆 著
娘が母を殺すには？
PLANETS
(2024/5/15)



三宅香帆 著
**なぜ働いていると
本が読めなくなるのか**
集英社
(2024/4/17)



はらだ有彩 著
「烈女」の一生
小学館
(2024/2/29)



河野沙也子 著
**日本画家小譚
マンガで読む
巨匠たちの日常**
青幻舎
(2024/11/8)

客員教授



彬子女王 著
日本美のころ
小学館
(2024/12/6)



彬子女王 著
京都 ものがたりの道
毎日新聞出版
(2024/7/16)



彬子女王 著
赤と青のガウン
文庫版
オックスフォード留学記
PHP研究所
(2024/4/3)



落合陽一 責任編集
生成AIが変える未来
扶桑社
(2024/5/7)



森村泰昌 著
**生き延びるために
芸術は必要か**
光文社
(2024/4/17)



山極寿一 著
**争いばかりの
人間たちへ
ゴリラの国から**
毎日新聞出版
(2024/10/3)

2024年度後期 新任教員のご紹介

2024年度後期から、
美術部に1名の教員
が着任いたしました。



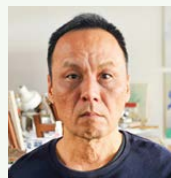
服部 円 講師
デザイン専攻

2024年度末 退任のお知らせ

2024年度末に、
3名の教員が退任
いたします。



砂原 悟 教授
ピアノ専攻



谷本 天志 特任教授
油画専攻



人長 果月 特任准教授
構想設計専攻

2025年度～2028年度 理事長予定者のご紹介



公立大学法人京都市立芸術大学では、現理事長（赤松玉女）の任期が2025年3月31日をもって満了することに伴い、2024年11月11日から同月18日まで学内で意向投票（理事長選挙）を実施した後、理事長選考会議において小山田徹

を次期理事長予定者に選出しました。任期は、2025年4月1日から2029年3月31日までの4年間で、2025年4月1日付けで京都市長から任命予定です。なお、同任期で京都市立芸術大学学長を兼ねる予定です。

小山田 徹【こやまだ とおる】芸術家、京都市立芸術大学美術学部彫刻専攻教授

1961年鹿児島県鹿児島市生まれ。1987年に京都市立芸術大学美術学部美術科日本画専攻卒業。在学中に結成したパフォーマンス・グループ「ダムタイプ」の創設メンバーとして作品制作を行い、(pH)や(S/N)などの作品を国内外に向け発信。またAIDSやセクシャリティに関わる問題に向き合う活動を多くの人々を行う。1998年からダムタイプを離れ、個人の活動を始める。2010年に本学教員に就任。「共有空間の獲得」をキーワードとし、人々を巻き込みながら空間そのものを体験させる独自のアート手法を探索。焚き火場など、人々が集い関わる場を生み出し、社会に実装される共有空間が持つ新たな可能性を探索。2005年第2回アサヒビール芸術賞。

これからご覧いただける 本学主催イベント

- * 本学芸術資料館およびギャラリー@KCUAは入場無料です。また、月曜日および展示期間以外は休館しています（月曜日が祝日の場合は翌平日休館）。
- * 事前申込の方法やチケット販売など詳細情報については、各イベントのフレイヤーや本学ウェブサイトをご確認ください。

EXHIBITIONS

京都市立芸術大学作品展 2024

会期 | 2025年2月7日（金）～2月11日（火・祝）
会場 | 京都市立芸術大学

2024年度 ギャラリー@KCUA 申請展

「Dessine-Moi Un Mouton ～羊の絵を描いてよ～ 宇宙用の絵画たち」
「ダイヤモンドから夢を放つペルセウス」

会期 | 2025年1月11日（土）～2月11日（火・祝）
会場 | 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

アートスペースk.kaneshiro 第4回企画展

「筆を執る 金城コレクションに遺る文化人の筆跡」

会期 | 2024年11月22日（金）～2025年3月2日（日）
会場 | 京都市立芸術大学 アートスペース k.kaneshiro

赤松玉女 退任記念展「Ladies－これでおしまい、そしてここから」

会期 | 2025年3月20日（木・祝）～3月30日（日）
会場 | 京都市立芸術大学 C棟1階プロジェクトルームほか

「herstories－女性の視点でたどる美術史」

会期 | 2025年3月20日（木・祝）～5月25日（日）
会場 | 京都市立芸術大学 芸術資料館

2024年度 ギャラリー@KCUA 申請展

「版画専攻 創設55周年記念展 レガシー・プリントアーカイブ」

会期 | 2025年3月18日（火）～4月6日（日）
会場 | 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA



表紙の写真

①第174回定期演奏会（2024年7月5日/京都コンサートホール 大ホール）②イザドラ・ネヴェス・マルケス「ヴァンパイア・イン・スペース」（2024年11月4日～12月22日/本学内ギャラリー @KCUA）撮影：来田猛 ③「オートムウィンズフェスト」（2024年11月13日/本学内堀場信吉記念ホール）④京都芸大（はじめて）物語 第3期「道を拓きものたち一知られざる先駆者ー」（2024年9月21日～11月24日/本学内芸術資料館）⑤芸術資源研究センター「園府理（相対温室）循環プロジェクト」資料展（2024年12月15日～23日/本学内交流室）⑥「弦楽専攻教授陣によるプロフェッサーコンサート」（2024年12月15日/本学内堀場信吉記念ホール）

SYMPOSIUM

芸術資源研究センター開設10周年記念シンポジウム 「芸術とアーカイブの未来像」

日時 | 2025年2月8日（土）13時開始
会場 | 京都市立芸術大学 堀場信吉記念ホール
入場料 | 無料・申込不要

CONCERTS

作曲専攻生の新曲発表会

文化会館コンサート「Birth of Music」

日時 | 2025年2月6日（木）18時開演
会場 | 京都市北文化会館
入場料 | 無料・申込不要

第176回 定期演奏会

大学院オペラ公演「ドン・ジョヴァンニ」

日時 | 2025年2月17日（月）18時開演
会場 | 京都市立芸術大学 堀場信吉記念ホール
入場料 | 2,000円（全席指定）

ピアノ専攻教授陣による

プロフェッサーコンサート「煌めくピアノイズム」

日時 | 2025年3月5日（水）19時開演予定
会場 | 京都市立芸術大学 堀場信吉記念ホール
入場料 | 2,000円（全席指定）

今年度卒業する成績優秀者による演奏

第54回 卒業演奏会

日時 | 2025年3月20日（木・祝）開演時間未定
会場 | 京都市立芸術大学 堀場信吉記念ホール
入場料 | 無料・要申込（全席自由）

新たな書きへの挑戦！

砂原悟教授 退任記念演奏会「minipiano 2.0」

日時 | 2025年3月29日（土）15時開演
会場 | 京都市立芸術大学 堀場信吉記念ホール
共演 | ガムラングループ・パラグナ、卒業生
入場料 | 3,000円（全席自由）

